

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成20年3月10日
事業所名	グループホーム輪楽笑Ⅱ
事業所番号	2372501193
記入者名	職名ホーム長 氏名 長瀬貞次
連絡先電話番号	0568-52-1719

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々との関係を重視し、サービスの質の確保と向上に向け 利用者・家族の希望に沿って私たちは「 地域で暮らし続けることへのサポートをします。 」「 自分らしく生きるためのサポートをします。 」「 頑張らない でもあきらめるな! 」「 みんな一緒になって暮らそう、笑いがある生活 」		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時や月一回の全体会議で話をしていますが、まだまだ理念として日常的に話していない。	○	・自分がどのように取り組んでいるかを、朝のミーティングや全体会議で確認していきます。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・地域の社会福祉協議会主催で65歳以上の高齢者を対象に月1回開かれる「元気の出る会」に参加し、ホームのことを理解してもらえよう話しています。	○	・「元気の出る会」に引き続き参加して、地域の方々との関係を深めていきたい。 ・毎月発行している「輪楽笑Ⅱだより」を利用して理解していただく。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	・散歩に出かけたときや、散歩している地域の方々に「おはようございます」「こんにちは」の挨拶や、時には立ち話を職員の方から積極的にしている。 ・花壇を造り少しでも気軽に立ち寄っていただけるよう日々努力している。 ・町内の組に入り回覧板にも参加している。	○	・時々施錠している門扉は、近所の人が入りにくいと思いますので可能な限り開放していきたい。 ・外からではホームで何をしているのか解りづらいので、掲示板など設置して「気軽にお茶など飲みに来てください。」など、お知らせしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の社会福祉協議会主催で65歳以上の高齢者を対象に月1回開かれる「元気の出る会」には、欠かさず参加しています。 ・地域のクリーン作戦には必ず参加しています。 ・夏祭りなど地域の行事には参加しています。	○	・地域の社会福祉協議会主催の「子育てサロン」とのつながりを持ち、行き来したり、公園に散歩に行った時などに交流していく。子育て中の母親も地域の中で孤立する可能性がある。高齢者と接する機会も少ないので息抜き、世代間交流の機会としたお互いメリットがあると思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域包括支援センター主催の介護教室に講師として参加した。	○	・「パトロール中」のタスキをして、散歩しながら公園に不審者はいないかパトロールをする。 ・散歩しながらゴミ拾いをするなど、地域の美化活動をする。 ・地域包括支援センターと連携して、対象者があれば散歩しながら高齢者世帯の見守り（挨拶、安否確認）をする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の指摘事項は改善している。 ・研修会での資料を基に勉強会を実施している。 ・自己評価により少しずつですが改善されている。	○	月一回開催される、地域の社会福祉協議会主催の「元気の出る会」に参加して、地域の方々との関係を構築しています。最近には会に参加されている複数の会員の方々から、自宅でとれた野菜などいただくようになりました。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・開催回数も少ない。推進会議では経営報告や利用者さんの生活現状などは報告しています。・外部評価・自己評価の報告も話し合いもされていない。	○	・開催回数を増やし、高齢者、認知症の人が地域の中で暮らし続けることの可能性や課題を具体的に話し合う機会とし、具体的な話題を通して付き合いを広げていきたいと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護保険認定申請の申し込みやご家族の相談ごとなど、その時々市に介護保険課に行きアドバイスを受けています。	○	・もっと連携を密にし、利用者、家族、ホームの悩み事を打ち明け解決していきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会も話し合いもしていない。	○	・地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・「ダメ」「いかん」「待ってね」は、ほぼスタッフ全員が口にしていました。スピーチロック（喋れないようにする）も虐待の一つを全員で確認した。 ・利用者が怒っても決して手を出さない、利用者の噛みつき行為などの暴力行為には、アームバンドをして対応するなど防止に努めています。	○	・虐待防止関連の法律を職員に知ってもらう機会を作りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	・利用料金を含めた実施事項を作成し、宿泊を前提とした体験入所を実施する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	・利用者の日記帳を活用し自由に感想や意見を書いてもらう。 ・自分からは考え付かない方も多いと思われるので、尋ねる機会を作る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	・「輪楽笑だより」を活用してアンケートなどを実施し家族の意見や要望を聞く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	・意見箱を設置、利用者・家族が自由に感想や意見を書いてもらう。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	・運営者、管理者はどういうホームにしたいのか、という思いを常に職員に伝える。思いが世間一般の介護の常識、方向性に逆行することがないよう研修等を定期的に受ける。職員は運営者の言葉通り「考える介護士」になることを常に頭に置くようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	・トイレ介助や入浴介助を拒否される利用者が入所しているので、遅番を二人体制にしてはの意見がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々職員と公私問わず悩み事を聴くなどコミュニケーションをとり努力している。 ・幸いにも離職者は少なくうれしく思っています。もちろん異動や離職者が出ないとも限りません、なじみの関係を持つスタッフを一人でも多くつくり、利用者へのダメージを防いでいきます。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・現在二人から三人が一組になり利用者の部屋割り担当を三か月交代で決め、部屋の清掃や整理を利用者と一緒に行っています。これからはもう少し担当期間を長くしてなじみの関係づくりをしていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・行政やグループホーム連絡協議会主催の各研修会には積極的に参加している。口頭での説明はありますが報告書になっていないものがある。 ・働きながらのトレーニングは行っているものの、法人内の研修機会は十分確保できていない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の全体会議が研修の場としています。研修結果を発表したり検討したりする機会を別に年6回程度は実施していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡協議会主催の尾張地区相談会には積極的に参加し、ネットワークづくりや勉強会、訪問等の活動をして、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は実施していた。職員一人一施設以上は他施設（グループホーム以外も）の見学をしていく。 ・近くにある別ユニットと、もっと交流を増やす。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・三カ月に1回程度の親睦を図る飲み会を実施している。 ・気軽に悩みを聞いたり聞かれたりする環境づくりに日々取り組んでいる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み会だけでなく、職員のストレス軽減に向けた取り組みは他にないか、職員と一緒に考えていきます。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々努めていると思います。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心に繋がるような情報を見つけ提案していきたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前には必ず本人と面談し、現在の生活の様子や過去・現在の嗜好状況等を伺い初期の信頼関係づくりに努力している。	○ ・体験入所を一泊二日以上実施し、本人の不安などどこまで聴くことができるか別として聞く機会をつくる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前には必ず家族と面談し、必要経費の相談や具体的に困っている内容を聴き、そのうえでグループホームに期待すること等を伺い初期の信頼関係づくりに努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談内容を参考に必要とする支援を検討して介護記録に反映してる。 ・グループホームに合う方か、特養が合う方か、医療を必要としているかなどを聞き取り、対象と外れていると思われる時は、より合いそうな施設の見学をすすめている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・他の利用者との関係はうまく生活できるのか、スタッフとうまくやっけていけるのか家族と相談しながら実施している。 ・利用者さんの状況に応じて、何度か家族と一緒に日中のみ来てもらう、などの対応をしたことがある。	○ ・運営者、管理者、職員の代表者で構成する検討委員会を立ち上げ実施していきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・常に人生の先輩であるという気持ちを忘れず、話をしたり聞いたりしている。 ・重度な利用者さんが多くなると、スタッフの都合で「業務をこなしていく」ことにとらわれ、「一緒に過ごす」ことを忘れがち。介護する側、される側という姿勢になりがち。	○ ・利用者さんの状況に関らず、一緒に過ごす、学び支えあうという姿勢は持ち続けられるよう、自己コントロールできるようトレーニングをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・お嫁さんから、入所に至るまでに親戚への了解をとるまでの苦労話など家族の立場に立って話を聞いています。	○	・お会いした時は、家族の思いや考えをもっと聞いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・長男と本人、嫁さんと本人、ご家族と本人などこれまでの関係をことあるごとに話していただき、より良い関係が築いていけるように努力している。 ・直接家族対応をしないスタッフの間では誤解が生じがち、偏見も持ちやすい。	○	・お会いした時は、家族の思いや考えをもっと聞いていきたい。 ・それをスタッフ全員で共有する機会（会議などで）を持つ。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・相手から尋ねてくれる方のみで、積極的にはできていません。	○	・利用者の過去を大切にするような支援を忘れていました。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・対立しあう二人を、二人だけにしないとか、スーパーへの買い物は交代で行い、行く前に買い物メモを書いていただく担当、行ってからは買い物メモを読む担当、食品を選び籠に入れる担当、レジでお金を支払う担当を決めるなど、常に共同作業に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院することで退所された利用者のところへお見舞に行っています。 ・一人外出で亡くなられた利用者の命日には三年間お墓参りをした。 ・退所されたご家族に年賀状を出しています。（亡くなられてからは出していません。）		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの把握にはできる限り努力はしていますが正直できていません。 ・入居前の家族からの情報が頼りで、本人に対し定期的に総合的に意向を聞く努力はしていなかった。	○ ・利用者一人ひとりが、「何が楽しくて」「何が好きで」「一日をどのように過ごしたいのか」把握していきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりの把握にはできる限り努力はしていますが正直できていません。 ・入居前の情報は聞き取りし、書類も作成しているが、スタッフ全員に浸透していない。ケアプランに取り入れても、「一人ひとりのなじみの暮らし、楽しみごと」を継続する意義の説明が不足、スタッフ全員に理解されていない。	○ ・特に馴染みの暮らし方について、家族の協力を得て情報収集していく機会を作ります。 ・会議でスタッフ全員に共有できるようにしていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの心身状態は把握出来ていますが、過ごし方については、できる限り努力はしていますが正直できていません。 ・些細なことですがカーテンの開け閉めなど、有する力をできる限り残していけるよう努めています。	○ ・先ず一人ひとりの有する力を見つけていきます。 ・できることできないこと表を作成、更新をしていない。かわりに介護記録に何を手助けするか書いているが更新できていない。うまく連動できないか。 ・和気あいあいでもいいのかもしれませんが、布団敷きなど、自分からできることまで声かけしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・具体的な内容で、できる限りその人らしさを書くよう努力している。 ・介護記録や毎日の申し送り時と全体会議での意見交換を基に作成しています。 ・家族の意見を取り入れながら作成し、ケアプランのコピーを家族に渡しています。意見は面会時や電話で得ていますが時間も機会も少ないと思います。	○ ・全体会議では問題を提議するところで止まりがちです。解決策は家族を巻き込んでスタッフ全員で考えていきます。正解は絶対ないと言う考え方で、サービスの質の向上につながれば何でも実施していきたい。 ・スタッフ全員からのアイデアがもっと出たらい。プランはケアマネが作成、スタッフは「従うもの」というように考えている。だから意見が出ない、自分で考えない。プランは日々の記録、会議での意見をもとに作成した一案にすぎないと考えて、どんどん見直し意見を言ってほしい。ケアプランの仕組みを理解するために、以前介護で説明したが、一度スタッフ全員が実際に作成してみたらいいと思う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・見直しはおおむね三カ月です。会議や連絡帳で対応の仕方などの案を出し、プランにはその都度付け加えるようにしている。 ・トラブル発生、体調の変化があった時など家族と相談しながら現状に即した計画を作成している。	○ ・もっと家族の意見を聞く機会を設けていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各利用者ごとに毎日記録している介護記録や連絡帳を参考にして実践や介護計画を見直している。 ・利用者の変化、気づき、問題にしてほしいことなど介護計画に反映しています。	○	・これまで通りきちんと記録する。 ・他のスタッフの記録はもれなく読む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・していません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・愛知県教育センターの異業種研修生を受け入れています。 ・民謡、詩吟、手品などのボランティアさんの協力を得ています。	○	・活用できる地域資源を調査し時には見学などをしていきたいと思っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のNPO法人や、デーサービス事業者の主催する行事に積極的に参加している。	○	・話し合いを計画していきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・利用者の現状や今後の対応について相談しています。	○	・継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族と相談しながら5年以上かかりつけ医としてよい関係を継続しています。 ・歯科医がホームに来て歯科検診を年2回行っています。 ・近くの眼科医と良い関係で結ばれています。 ・家族の希望で内科医の往診があります。	○	・継続していきます。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・関係の良い専門医に受診している利用者がいます。	○	・医師を招き勉強会ができるよう努力します。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・薬の管理はもちろん排便、排尿等の健康管理から利用者の介助までしてくれます。	○	・職員だけでなく、利用者の訴えも親身になって聞いていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・できていません。	○	・医療機関のソーシャルワーカーと連携を密にしていきたいと思います。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・かかりつけ医との話し合いも少ない。 ・医療行為が必要となれば家族の同意を得て利用者は入院しているのが現状です。 ・入所時看取りの指針の同意は得ているものの、医療行為が発生した時は入院していただくよう説明している。利用者本人にとって一番よいと思われる方法を選んでいる。	○	・家族、利用者本人にとって一番よい方法を選んでもらう。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・実際に起こった例を参考にチームの支援として共有している。 [例] 肺がんを患い、生き苦しいときは市販の酸素ボンベで対処し、終末期には家族の希望で夜間のみ長男が寝泊まりして入院後三日で亡くなりました。	○	・かかりつけ医との連携に向けた話し合いの実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	・サマリーは利用者本人のありのままの姿を書き 住み替えによるダメージを防ぎことは勿論のこと、受け入れ先との信頼関係を築いています。	○	・サマリーをより充実していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	・スタッフ全員、言ってよいこと、悪いことは区 別しています。	○	・常に利用者の立場に立って、言葉かけや対応を 引き続きしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	・やりたいことを無理に止めたり、否定するこ とは避けて支援しています。	○	・利用者に指示するのではなく、何がしたいのか 利用者の気持ちを重点に支援を継続していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	・職員の都合で仕事をしている時もありますが、 その時々々の心身状態で臨機応変にその人らしい暮 らしができるような支援に心掛けている。	○	・常に利用者の立場に立って支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	・身だしなみの支援はしていますが、服のボタン が気になりちぎってしまう利用者がいます。混乱 されないようボタンをとってしまった服もある。 ・男性一人は支援拒否が強く理容院には行けな いので免許を持っている職員が散髪しています。 近くのなじみの美容院を利用しています。		・「髪を切って若くなってね」「その服オシャレ だね」など声かけを忘れないようにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎食多くの利用者に手伝ってもらっている。 ・片付け先がわからないなど混乱してしまうことが多いので必ず一緒に片づけたり見守をしています。	○	・なかなか言われませんが、引き続き食べたい物を聞いてリクエストに応じていきます。 ・○と○ならどっちがいいですか、などと聞き方を工夫する。故郷の郷土料理などを調べたり家族に聞いたりして提供する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・最近男性利用者にたばこをのんでいただくところ、本当においしいそうな顔をされ喜んでいただきました。	○	・一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるようもっと支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排便のコントロールを便秘薬だけでなく、便器に座って排便できるよう支援しています。	○	・わからない利用者は大変困難ですが、排便は食事と同様に大切なサインなので、できる限り自然に近いコントロールをしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日入浴可能な状態を作っていますが、入浴を楽しんでいただける利用者は二名ほどしかいません。 ・入浴時間は2時から6時ころまででスタッフの都合を押し付けないよう努めています。	○	・一人ひとりの希望にあわせて入浴を楽しめるよう支援をしていきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・就寝は自由です。 ・利用者自身のリズムで20時から21時ころ床に就かれます。 ・夜寝られない方が3名います。 ・睡眠導入剤を服用している利用者が2名います。	○	・夜寝られない方が安心して寝れるよう支援していきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・プランになっているが浸透していない	○	・利用者の可能性を導き出せるよう支援する。 ・日々の家事などは役割を持っていただき、できていますが、食事作りがスタッフ主体になっている。 ・楽しみごとはほとんどできていない。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・満足ではありませんが、利用者個々に財布を用意してあり百均での買い物に出かけています。	○	・利用者自身が理解して買い物していただけるようなムードづくりをしていきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・スーパーへの買い物は3日に2日行っています。 ・外食は月に1回から2回しています。 ・近くの喫茶店へ月1回は行っています。 ・近くの公園まで散歩によく行きます。	○	・利用者の希望に出来るかぎ沿って外出支援をしていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・貸し切りバス1台で家族とともにイチゴ狩りに行ってきました。今年で3回目です。 ・個別、少人数ではしていない。楽しめる楽しめないに関らず一律に全員で出かけることが多い。	○	・継続していきます。 ・今の勤務状況では難しいかもしれませんが、もう少し柔軟な対応をしてはどうか。利用者さんも、出かける組、留守番組に慣れていただけるかもしれないので。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・御主人との手紙のやり取りをしている利用者が1名みえます。継続できるように支援しています。	○	・ハガキ作りからしていただき家族や親しい方宛てに出していただけるよう準備を進めています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・笑顔で気持ち良くお迎えしています。		・引き続き継続していきます。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・スピーチロックや絶対手を上げないようにしています。		・引き続き継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・スタッフの少ないときや利用者の心身状況により施錠していますが、できる限りチャイムを活用していますが、死亡事故があつてからは日中でも施錠してしまうときがある。二度とかわいそうな悲劇は起こしたくない。・鍵をかけないケアの重要性は分かっています。	○	・できる限り鍵をかけないようにしています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・ふらつきのある方、徘徊のある方、暴力行為のある方の見守りは昼夜問わずプライバシー、安全に配慮して行っています。		・引き続き継続していきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・なるべく本人管理に心がけておりますが、混乱につながるものや貴重品は本人の了解を得て事務所で預かっています。		・引き続き継続していきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・防げる事故については万全を期して事故防止に取り組んでいます。		・引き続き継続していきます。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急救命講習会にはメンバーを変更して毎年参加しています。		・引き続き継続していきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害対策マニュアルを作成し避難訓練を随時行っています。 ・近隣の方とは、日頃からの挨拶をこちらからするようにし、顔見知りの方が一人でも多くできるように心がけています。 ・夜間の避難通路（洗濯場）にはできるだけ物を置かないようにし、業務日誌でチェックしています。	○	・消火栓の設置場所の把握をしていざというときに利用できるようにする。 ・避難の方法など再検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・自室での転倒や心臓停止による救急車の依頼をした利用者を中心に、かかりつけ医と相談しながら家族に説明しています。	○	・現病歴や既往歴、遺伝から来る病気による病状や危険性を家族に説明していく機会を設ける。 ・他の利用者の勘違い等により発生する転倒事故など、共同生活において起こりうる事故を家族一緒に話し合う機会を設ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックや顔の表情などで、速やかに情報を共有し、かかりつけ医と相談しています。	○	・止むお得不い事情があり時は事後連絡でもよいから家族への報告を忘れないこと。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬の説明書を利用者ごとにファイルして薬の目的など理解し、服薬の支援と変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・看護師の指導により水分を多く摂取したり、運動したりしています。	○	・日々の活動量アップが必要だが、なかなかできていない。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯磨きをしてくださないとお願いしても、自室に行くまでに忘れてしまわれる利用者には見守りや声かけをするなど、利用者ごとに応じた支援を心掛けている。	○	・食後の歯磨きや就寝前の歯磨きの習慣ができていないので、本人任せにしてしまうケースがあるので全員を見守るようにしていく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取量の把握はできていますが、栄養バランスについては、できていません。	○	・引き続き水分摂取に力を入れていく。 ・栄養バランスについても支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・マニュアルはいつでも目に付くスタッフルームの机にあります。 ・消毒は今の洗面所と玄関に置いてあります。 ・毎食時前には、手洗いを必ず行い消毒していますし、季節によってはうがいもしています。 ・月に1度消毒用エタノールで、トイレの手すりなどを中心に消毒しています。	○	・これからも慎重に行い、感染症を広げないための情報を提供する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所の消毒を洗剤やキッチンハイターで消毒しています。・新鮮な食材使用に心がけ、賞味期限などには注意を払い管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・ホームの周りを歌壇にし、入りやすい環境づくりに工夫しています。 ・訪問客があればスタッフ全員が笑顔で対応しています。	○	・引き続き継続していきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節ごとの行事や飾り付けなど季節感を味わってもらっています。 ・玄関には、生け花を飾るなどして一般家庭の雰囲気を作っています。	○	・生花など得意な方もいるので、玄関飾りにもっと利用者さんを巻き込んでいきたいと思えます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気候の良い時は、玄関先のテラスで花火やコーヒ一、秋には秋刀魚を炭で焼いています。・井戸端会議などは、玄関先の縁台や居間のソファですべていただいております。	○	・引き続き継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・なじみの家具やカーテンを持ち込んでいただく ように文書や口頭で案内しています。趣味の人形 や絵画、写真、アルバムを持ち込まれて見えま す。	○	・引き続き継続していきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・入居者と相談しながらスタッフがエアコンの調 節をしています。・湿度計、温度計は各部屋に設 置し、居間には乾燥時期に限り加湿器を設置して います。	○	・引き続き継続していきます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・建物の全体がバリアフリーになっており、転び やすい利用者には、ご自分にあった履き物を工夫 し用意しています。	○	・安心、安全を前提にトイレの手すりの位置はこ れでよいのか、危険な物や場所は無いのかなど検 討していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・トイレの表示を利用者の目線位置に低くした り、お風呂場の表示を工夫しています。	○	・先ず利用者個々の「わかること・わからないこ と表」を作成し、いかにしたら自立して暮らして いけるのか、どんな環境づくりが必要なのか検討 し実施していきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・玄関先でサンマを焼いたり、利用者と一緒に窓 格子を利用して柿の皮をむき干し柿をすくりまし た。	○	・玄関先や花壇、裏庭を利用して何か楽しいこと ができないか再度検討します。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・いつも「笑いがある暮らし」をモットーに、職員自分自身がよいと思ったら「その時々で、ベストを尽くせ」を合言葉に取り組んでいます。